

日付：2004年8月19日

提出元：NTT 東日本

題名：長野県協同電算殿の実験結果は JJ100.01 の妥当性を示している。

1. はじめに

長野県協同電算殿は、実験による測定結果をもとに、JJ100.01 第2版の欠陥（特にB章）を主張されている。しかし、現在まで同社が提出した寄書において、JJ100.01 第2版との相違点（欠陥とよばれている部分）が明確になっていない。

本寄書は、長野県協同電算殿寄書（SMS-10-16）における漏話減衰量の測定結果について、弊社の分析結果を示すものである。

2. JJ100.01 と長野県協同電算殿実験結果比較（漏話減衰量）

以下に、JJ100.01 第2版における漏話減衰量の周波数特性と、長野県協同電算殿の測定結果を示す（図1～4）。理論値と測定結果を比較すると、長野県協同電算殿の測定した漏話減衰量（dB）は、JJ100.01 第2版で定義された周波数特性の傾向にほぼ合っており、JJ100.01 第2版の妥当性を示す結果となっている。

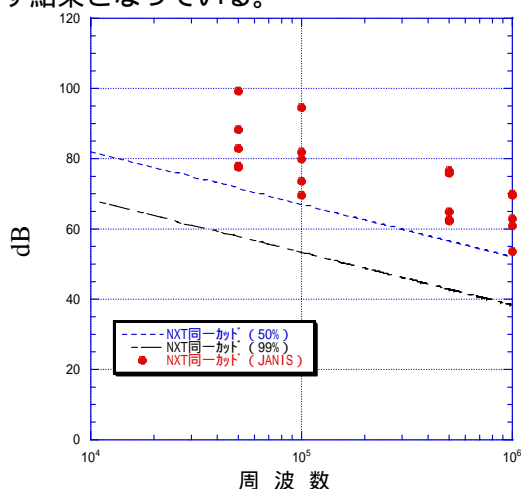


図1) 近端漏話減衰量(同一カド)

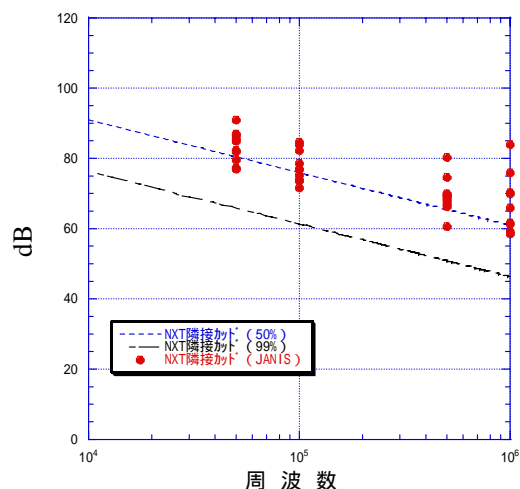


図2) 近端漏話減衰量(隣接カド)

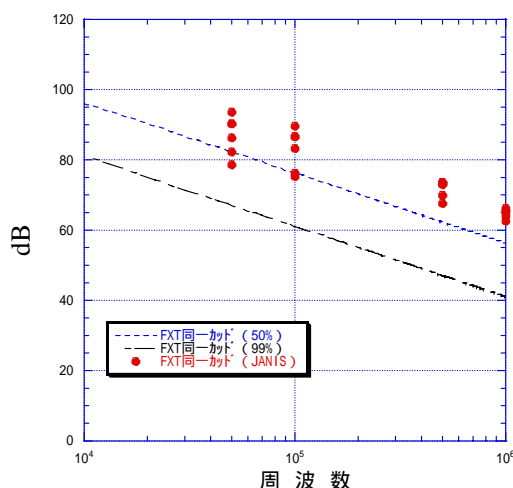


図3) 遠端漏話減衰量(同一カド)

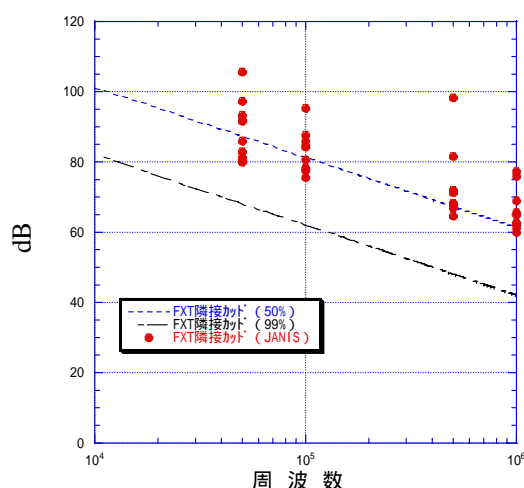


図4) 遠端漏話減衰量(隣接カド)

3. JJ100.01 第2版とNTT測定結果比較（漏話減衰量 同一カット NEXT）

以下に漏話減衰量の周波数特性（JJ100.01 第2版）と、NTTの測定結果を示す（図5）。測定結果と理論値を比較すると、長野県協同電算殿の測定結果と同様に、漏話減衰量（dB）は、JJ100.01 第2版で定義された周波数特性の傾向にほぼ合っており、JJ100.01 第2版の妥当性を示す結果となった。

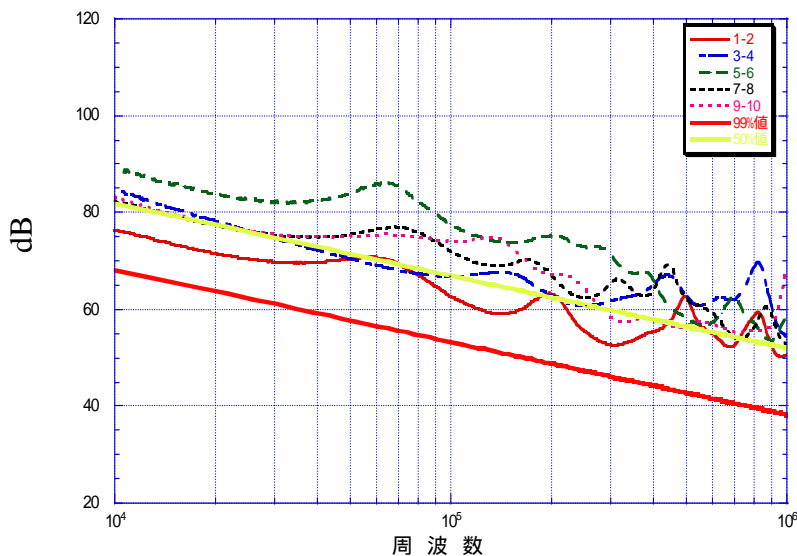


図5) 近端漏話減衰量（同一カット）

4. 最後に

長野県協同電算殿は、実験による測定結果（特定環境における、特定装置の伝送速度比較）により JJ100.01 第2版（特にB章）の欠陥を指摘されているが、測定条件（ケーブル損失等）や、原因（ケーブル or 装置）が不明確であるとともに、長野県協同電算殿が欠陥と主張される明確な根拠を実験による測定結果から説明（証明）できていない。

さらに、本寄書で示した通り、実験による測定結果が JJ100.01 第2版の漏話特性の妥当性を示す結果となっており、B章に欠陥があるとの主張と矛盾が生じている。

長野県協同電算殿は、実験による測定結果と JJ100.01 第2版を比較分析し、欠陥と主張される明確な根拠を示すべきである。

C.4.6	オープン	漏話減衰量の見直しは必要か？	
-------	------	----------------	--

以上